

チータムズ・スクール 貧しい少年達から音楽学生達

インフォメーション・ノート 2

このインフォメーション・ノートはチータムズ図書館の訪問者の皆様にハンフリー・チータムによって設立された学校について述べています。之はインフォメーション・ノート 1 と共にお読みいただく様にデザインされております。

ハンフリー・チータム：慈善奉仕と学校設立基金の考え

ハンフリー・チータムは彼の晩年に於いて、その富裕な財産の一部を幾つかの慈善目標に充てました。彼はマンチェスターのカレッジット教会（大学学生寮を併せ持つ教会）とその近隣の彼の一族が関係する幾つかの村々に在る教会の修復費用を援助しました。マンチェスターとその周辺地域における責任ある立場に居る間、町に於ける貧しい人々の援助に関する考え方とその実施に影響を与えました。彼は彼の一族に対しても寛大でした。彼は次第にその慈善活動の方向を「教育と学習」に向けて行きました。彼は地域の町や村々の少年達に織物、森林作業、建築の技能を教える為の資金を提供しました。専ら貧しい家庭の少年達に限られ、訓練期間を通して彼がその費用を支払い、彼らが貧困から抜け出す事が出来る様に計らいました。彼はマンチェスターの少数の貧しい少年達が適切な環境の家庭に住み、教育を受けられる様にしました。彼らは孤児達や彼らの面倒を見る事が出来ない親を持つ少年達でした。

彼の慈善事業は彼の所有する建物に、宿泊施設と学校が併設された施設（慈善施設）を設立すると言う当然の発展をしました。マンチェスターのカレッジット教会にオールド・カレッジを結びつけると言う目的の為に其れを購入する事に情熱を注ぎました。之は彼の学校と図書館の双方を含んで居ます。彼は其の購入を完結する前に亡くなりました、そして彼の 24 人からなる法定代理人達（Feoffees）に彼の提案の実行責任が委ねられました。

少年達とその学校での生活

40 人の選ばれた少年達は彼らが学ぶ能力が有る事を示さなければ成りませんでした。彼らはマンチェスター或はチータム家と関連の在る村々に住んで居なければ成りませんでした。彼らの両親は人柄が良く、少年の教育に関心を持ちその支払い能力が有る事が必要でした。少年達は 8 歳から 9 歳で学校にやって来ました。彼らは 24 人の法定代理人達の面接を受け、記憶して居るキリスト教の教えの中の 3 つのステートメント（主の祈り、十戒、クリード）を述べる様に求められました。少年達は制服のチュニック、ハンチング帽、靴下そしてバックル付の靴を身に付けて居ました。初期の学校での授業、レクリエーション、福利などの幾らかの証拠記録が得られます。少年達は 14 歳に成るまで学校に滞在しました。その年齢に成ると彼らは技術を教えられ、賃金を支払われる地元企業の見習い労働者と成りました。

学校は徐々に規模を拡大し、1800年代後半には凡そ100人の少年達を収容して居ました。その当時の小説や写真による記録は彼らの生活についての識見を与えて呉れます。入学の必要条件や手順は変わる事無く、そして少年達は同じ制服を1954年まで引き続き着ていました。教育行動は1952年に政府に渡され、学校の地位が変わり、マンチェスターの慈善学校（ニコールズ・スクール）と合併しました。1954年ニコールズ・スクールの少年達はオールド・カレッジの建物のチータムズ・スクールの仲間達と一緒に成りました。学校はやがて政府基金の下での中等教育学校に成りました。之は、昔のカレッジット教会（今のマンチェスター大聖堂）が長年に渡って聖歌隊の少年達の教育をチータムズ・スクールで行って来たという、音楽的伝統を享受するものでした。新しい中等教育学校は1969年まで続きました。当時政府は少年少女の為の音楽専門学校をイギリス北部に設立したいと望んで居ました、そしてチータムズ・スクールはこの計画に基づいて当然選ばれました。

今日、チータムズ・スクール・オブ・ミュージックは290人の学生が居り、このタイプの学校としては連合王国（UK）で最大の学校です。之は政府の「音楽と舞踊に関する計画」によって設立され、奨学金は、親に教育費の支払いに余裕の無い学生達を学習可能にしました。又、才能ある海外からの学生に対しては個人的に基金が作られました。将来を期待される学生達は、突出した音楽的才能とその可能性についてオーディションに基づいて選ばれます。又僅かながら8歳から主に11歳の学生も認められます。マンチェスター大聖堂の聖歌隊は13歳まで学校で教育されます。

学校とその建物

貴方が図書館を訪れる時、多分建物の一部、学校生活での初期に演奏に使われた処を訪れる事が出来るでしょう。之は保証の限りでは有りません、建物は頻繁にコンサートに使われたり、グループでの訪問者やミーティングの予約が入ったりして居るからです。

かつては初期の宗教学校のメンバー達が食堂として使って居たバロニアル・ホールで少年達は食事しました。台所（現在のアソシエーション・ルーム）は今も引き続き使われています。練習や睡眠をとる為の宿舎はピンク砂岩の建物の他の部分に有り、其れを関連させる建物は既に実在して居ません。オーディット・ルームはかつて大学の学長の宿舎として使われていました。少年達が学校の学生になるべく法定代理人達の面接を受けたのが此の部屋です。貴方が図書館に到着、或は図書館から外に出る時に横切られた中庭は元々は少年達のレクレーションの為の場所として使われていました。1800年代の終わりには宿舎の増設が必要に成りました。独立した建物が建ち予備の教室が出来ました。之は1877年に元来の建物と同じ砂岩で建てられました。ウォーター・ハウス・ビルディングとして知られ、現在、ヴィジター・センターに改造するべく計画が進んで居ます。この建物の設計はマンチェスター・タウン・ホールの設計責任者であるアルフレッド・ウォーターハウスです。

図書館の後ろに見える背の高い赤煉瓦の建物はチータムズ・スクール・オブ・ミュージックによって1969年から2段階に渡って買われました。それは賄付の宿舎と音楽教室や練習室を備えた物でした。元々これは近くの駅の乗客達が利用する様にデザインされたパラティン・ホテルでした。この建物の取り壊し許可が下されました。

図書館の反対側の建物、大聖堂側のアーチもやはり学校の所有するものです。ハンフリー・チータムが生徒として通った昔のマンチェスター・グラマー・スクールの一部でした。この学校は富裕な

家庭の少年達の為の学校でした。現在の建物は1877年に建てられました。チータムズ・スクールとマンチェスター・グラマー・スクールは此の中庭を共有しその時々にも小説にも書かれた、何時も友好的であったとは言えない、張合いを楽しんだ時代でした。マンチェスター・グラマー・スクールは1930年に新しい場所に移り、1955年にチータムズ・スクールがこの建物を購入しました。

2012年に学校の可成りの部分は近くの新しいステート・オブ・ディ・アート・ビルディングに移りました。多分、貴方が学校を出る時、警備ゲートの直前の左側に垣間見る事が出来るでしょう。

2015年7月

チータムズ図書館はこのインフォメーション・ノートの日本語翻訳に関し、御協力下さった郷司三保子さんに感謝の意を表します。